国立駅舎を残し、活かしていく事を求める署名

赤い三角屋根が印象的な国立駅舎は、大正15年に国立のまちづくりの一環として、まちと同時につくられました。その後75年経った今も、大学通りのアイストップとしての役割を果たし、国立のまちを象徴する建物となりました。そして国立市民はもちろん、駅を利用する他市の方にも愛されています。

わたしたちは、JR中央線連続立体交差事業の進展に伴い駅舎が解体されることを聞き及びました。JR中央線連続立体交差事業は、踏切や線路による交通遮断や渋滞、分断を解消し、駅の南北を繋ぐ事業でもあります。わたしたちは、これを契機に国立駅舎を残すことで、新しい高架駅とあわせて、よりよい駅と駅前空間の将来像を実現することができると考えています。また、国立のまちづくりに帰する駅舎の活用が実現できるものと考えてます。

わたしたちは、国立駅舎をなるべく今のかたちで残すことを、関係者である、東京都、JR東日本㈱及び国立市に要望いたします。

2002年　月　日　　赤い三角屋根の会会長　伊藤孜

東京都知事　石原慎太郎　殿
東日本旅客鉄道株式会社社長　大塚陸毅　殿
国立市長　上原公子　殿

名　前	住　所